

# SPORTS!

2012年はオリンピックイヤー！  
それにちなんでスポーツに関する本を集めました。  
今年の夏はスポーツで盛り上がりましょう！  
(しのぎ文化プラザ企画展示ギャラリーでも  
「スポーツ天国 江戸川区」(～9/17)の展示を行っています！)



**「オリンピックの身代金」**  
奥田英朗著  
角川書店  
Fオ  
篠崎ほか所蔵

オリンピック開幕前の東京で警察を狙った爆発事件が発生する——東京オリンピックは、敗戦から立ち直った日本の象徴であり、この時代の風俗、世相の描写がこまやか。犯人像にも反映されています。高度経済成長の陰に肉体労働を強いられた人々や、地方と東京の格差について考えさせられます。決して50年前の話ではなく、現在の日本にも通ずる話ではないでしょうか。



**「竹下佳江短所を武器とせよ」**  
吉井妙子著  
新潮社  
783.2ヨ  
篠崎ほか所蔵

身長わずか159cm。にもかかわらず、対戦相手国から「日本で最も嫌な選手」と讃えられる日本代表セッター・竹下佳江。何度絶望しても、その都度這い上がってきた彼女の心の強さに迫る。



**「鉄棒する漱石、ハイジャンプの安吾」**  
矢島裕紀彦著  
日本放送出版協会  
910ナ  
篠崎ほか所蔵

「大正13年、全国中学校陸上競技会、走り高跳び優勝、坂口安吾」などなど、作家とスポーツの意外な関係を紹介している本書。中でも、菊池寛の水着姿の写真は、必見です！



**「グランプリ」**  
高千穂遥著  
早川書房  
Fタ  
篠崎ほか所蔵

G1優勝者、賞金王など選ばれし者が出場できる「KEIRINグランプリ」。本作は選手たちの出場までの軌跡を描く競輪小説です。競輪にかける男たちの熱い思いを感じることができます。



**「100万回のコンチクショー」**  
野口健著  
集英社  
B786ノ  
篠崎所蔵

著者のストレートな表現のせいでしょうか、まるで講演会に参加しているような感覚でした。登山の苦労話というよりは、今までの彼の半生と一緒に経験しているように感じました。世界の中の日本人を意識させられました。



**「風が強く吹いている」**  
三浦しをん著  
新潮社  
BFミ  
篠崎ほか所蔵

箱根駅伝を題材にした青春小説。走ることで自分と向き合い、仲間と共に成長していく姿を描く。力強く走る彼らはとても印象強いです。読み終えた後、無性に走りたくなる一冊。



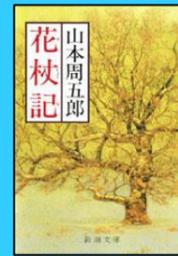
**「一流選手の親はどこが違うのか」**  
杉山英沙子著  
新潮社  
379ス  
篠崎ほか所蔵

元プロテニスプレイヤーの杉山愛はなぜ、17年間も現役でいられたのか。石川遼、宮里藍、錦織圭選手の育て方に共通点はあるのか。杉山愛の母兼コーチであった著者が、彼らの両親へのインタビューを交えながら語ります。



**「釜石ラグビー 栄光の日々」**  
上岡伸雄著  
中央公論新社  
783.4カ  
篠崎ほか所蔵

80年代中盤まで新日鉄釜石といえば、日本選手権7連覇を成し遂げ、とにかく強かった。当時の関係者への取材記とともに東北復興への願いが込められた、ラグビーファンであってもなくても熱くなる一冊です。



**「備前名弓伝」(「花杖記」所収)**  
山本周五郎著  
新潮社  
BFヤ  
篠崎ほか所蔵

岡山藩主池田光政の御秘蔵人と云われた弓の達人、青地三之丞。殺生を好まず、普段はその能力を隠しているが、主君の危機に際してその力を発揮する。やる時はやる男にシビれます。



**「一瞬の夏」(上・下)**  
沢木耕太郎著  
新潮社  
B916サ1-2  
篠崎ほか所蔵

復活を誓う元チャンピオンのボクサー。彼を支える若かりし頃の著者が綴ったスポーツノンフィクションです。いくつもの壁にぶつかりながらも足掻き続けた彼らの結末をどう捉えるかは、読んだ方次第です。



**「世界のサッカーマスコット大行進！」**  
斉藤健仁ほか編著  
出版芸術社  
783.4セ  
篠崎ほか所蔵

サッカーチームの顔、マスコット。サッカーの本場・欧州リーグのマスコット達は、正統派から「何これ？」と首を傾げたくなる不思議な造形までさまざま。マスコット観察もなかなかオツなものです。



**「夏から夏へ」**  
佐藤多佳子著  
集英社  
782サ  
篠崎ほか所蔵

「ズレた意見かもしれないが、この4継という競技は、やはり、学校の運動会の延長上にあるのかもしれない」(p94より)。そう、リレーという種目は、応援する人にも遠い日の運動会の熱気を思い出させる、特別な種目なのだと思う。読めばリレーが好きになる、北京五輪陸上男子4×100mリレー男子で80年ぶりに日本にメダルをもたらした日本代表4人の当時の軌跡を振り返る。



## 人物ブックマーク

### 第二十葉 織田幹雄

日本人初のオリンピック金メダリストをご存知ですか？アムステルダムで開催された第9回オリンピック大会(1928年)三段跳びの織田幹雄です。織田は1905年広島県生まれ。広島一中時代に本格的に競技をはじめ、1923年第6回極東選手権競技大会(大阪)で走り幅跳びと三段跳びに優勝し、脚光を浴びます。当時の日本陸上は、世界の情勢に疎く、コーチや指導書もなく情報を得られない状況で、彼は努力と工夫で技術を磨いていきます。1924年パリ・オリンピックで三段跳び6位入賞、日本陸上初の入賞者となります。そして、1928年アムステ

#### 織田幹雄関連資料

「織田幹雄」	織田幹雄	日本図書センター	V782オ	中央ほか所蔵
「人と出会う」	岡崎満義	岩波書店	281オ	篠崎ほか所蔵
「スポーツ感動物語」第2期2		学研教育出版	78ス	小岩ほか所蔵

人物ブックマークとは、著名人とその著作および関連本を紹介するコーナーです。

ルダム・オリンピック三段跳びで日本人初の金メダル(15m21)を獲得します。早稲田大学卒業後は、朝日新聞のスポーツ記者となるいっぽうで競技を続け、1931年には15m58の世界記録(当時)をマークします。引退後は、指導者として陸上競技連盟の役員などを務め、長く日本の陸上界の発展に貢献しました。彼の著作や関連書には、不屈の精神と陸上への情熱が溢れています。こんな凄い日本人がいたのですね。後輩たちのロンドンでの活躍を期待したいものです。



## そのメロディに魅せられて♪

さて8月、夏休みの予定は決まりましたか？南の島のリゾートでヴァカンスは憧れの過ごし方ですが、現実にはちょっと難しかったり。今回ご紹介するのは、アコースティックギターデュオ、ゴンチチの、南国テイストの曲ばかり集めたアルバムです。

### CD「南国音楽」

ゴンチチ K1コ06002 篠崎ほか所蔵

予定を入れなくておいた午後、好きな飲み物を用意して、おうちのお気に入りの場所で、この一枚をかけながらうたた寝、というのなかなか幸せな夏の過ごし方。波の音も入ってます。